

平成26年度 第3回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議 会議録

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 平成27年3月18日（水） 午後4時から 午後6時まで |
| 場 所 | 静岡県庁西館4階第1会議室 |
| 出席者職・氏名 | ◎高階秀爾 （公財）大原美術館館長 芳賀 徹 静岡県立美術館館長 石塚正孝 静岡県コンベンションアーツセンター館長 木苗直秀 静岡県立大学学長 荒木信幸 静岡理工科大学名誉学長・学事顧問 内藤 廣 建築家・東京大学名誉教授 坂 茂 建築家・京都造形芸術大学教授 寒竹伸一 静岡文化芸術大学大学院教授 東 恵子 東海大学海洋学部教授 岩崎清悟 （一社）静岡県経営者協会会長 酒井公夫 （公財）静岡観光コンベンション協会理事長 藤田圭亮 （株）なすび代表取締役社長 知事、静岡市長他 |
| 議題 | ・“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想（案） ～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～について |
| 配付資料 | 資料1：“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想（案）（概要版） ～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～ 資料2：“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想（案）（冊子） ～東静岡から名勝日本平、三保松原に広がる地域の整備～ |

【企画広報部長】 ただ今から平成26年度第3回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議を開催いたします。

委員の皆様には、年度末のお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

【川勝知事】 本日は高階会長先生をはじめ、それぞれ大変多忙な委員の皆様方、たくさん御出席賜りまして、誠にありがとうございます。これまで2回開催して、本日は年度として3回目が一番最後となり、「ふじのくに」の『文化力』を活かした地域づくり基本構想」をまとめたいということで、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

ちなみに、「文化力」という言葉ですが、国に必要な価値体系には、「力の体系」、「利益の体系」、「価値の体系」というのがあります。「力の体系」というのは軍事力です。「利益の体系」というのは経済力、「価値の体系」というのは文化力というように言われます。そ

れぞれ皆、必要なのですが、日本の国づくりにおける力点というのは、その時々国際情勢によりまして、戦前期は御案内のように軍事力に力を入れた形で国をつくっていきました。しかし、それ自体が自己目的とすることは誤りであるという認識のもとに国際連合ができましたし、戦後は、日本は経済力、「利益の体系」を軸にして国づくりをしてきたということはお案内のとおりであります。

一方で、本当に物の豊かさだけで十分であるかということで、既に昭和の後半期ぐらいになりますと、物の豊かさにも増して心の豊かさが必要だということが、それぞれの統計などから出てまいりました。その「文化力」というようなところに軸点を置いて、これから日本を、また世界各地の所も、戦争のない、しかし貧困もないような、そうした地域をつくっていかなければならないということです。そうした広い意味における「文化力の拠点」づくりを、静岡県がどうするかということですが、今日たまたま、皆さんの机の上に「世界クラス“ふじのくに”静岡県」という表を出しました。これは平成25年、富士山がイコモスによって、ユネスコに世界文化遺産に勧告をされて以降、驚くべきことに、平成25年には3つ、平成26年になりますと10件というように、今、17件も世界クラスの地域資産に恵まれてきたということが現われております。

こうした中で、我々は東静岡の所に視点を当てまして、そこから三保松原に至る所を改めて見ますと、国宝の久能山、あるいは名勝の日本平というところを軸にしまして、内陸側ですと、東静岡の駅の北側と南側の両方で、土地が使われてくれるのを待っています。すぐそばに球場もございます。運動場もございます。体育館もこの4月にオープンいたします。そして大学があり、美術館があり、図書館があり、先ほど言い落としましたが、グランシップもあり、そして名勝があり、反対側には三保松原、それから世界遺産「富士山」の構成資産もあるということで、ここのところがまさに、広い意味での文化の拠点になっています。

ちなみに、オリンピックというのも、これはスポーツの祭典ではありますが、広い意味では文化の祭典であると言えますが、世界における「文化とスポーツの殿堂」というものをイメージできる地域だということが、これまでの委員の先生方の御議論によって出てきたと思う次第でございます。

そうした中で、例えば、グランシップだけでも、今日は館長先生が来てくださっておりますが、演劇はSPACが世界のアビニヨンでデビューいたしまして、喝采を浴びたということもございます。あるいは、音楽の広場で3,000人もの人が音楽を楽しむという、その

音楽の、いわば拠点でもありますし、世界お茶まつりでも29カ国13万人の人たちが、このお茶まつりの時にグランシップに来られるというようなこともございまして、そういう様々な文化的なイベントが行われているという所でもあります。

したがって、この「点」をまた「線」に、「線」を「面」にして、この東静岡、ちょうど旧静岡市、旧清水市の両方を結ぶ、こここのところを通して、「地域力」を「文化力」に仕上げていくことが求められているというあたりが、全体の共通理解かなと思っております。もちろん、それぞれの所を「点」としてきちっと整える必要がありますが、「点」を「線」の中で、「線」を「面」の中で見るという、大所を大観しながら、小さな所は細かく見ると、こういう姿勢で見る必要がある。差し当たって、我々は、三保松原という天空への道から人々が乗り降りをする鉄道、日本の幹線でありました東海道のだ真ん中に東静岡駅というのがございまして、ここから富士山に通じる、天への道に通じる三保松原辺りまで、そこから辺りはやはり一つとして捉えるだけの器量を持ちたいということございまして、それぐらいのことでないと、わずか小きなどこかの所に何をつくるかというようなことで、これだけの人を集めるということとはかえって無礼だと思っております。是非短い時間ではございますが、日本の「文化力の拠点」になるつもりでもおります。何故かと言いますれば、富士山が日本の国土の統合をするシンボルだからです。その富士山というものを抜きにした静岡県の地域づくりはありませんで、そうした、富士の最高の名勝が日本平の頂上であるということです。

そしてまた、人としては徳川家康公が、今年没後400年目ということで、そのようなパクス・トクガワーナ、芳賀先生の言われる徳川の平和というものを発信する年にもなっているということで、こうしたものを全体として、その部分が全体を支え全体の中に部分が輝くような、そういう地域として構想していただくということで、是非基本構想として、我々が、事務局がまとめられるようになりますように、そして来年度から前倒しでそれを実践していくことができる、そこら辺のところまで議論が深まればと願っている次第でございます。何とぞよろしく願いいたします。

【企画広報部長】　　続きまして、本有識者会議の高階会長から御挨拶をお願いしたいと思います。

【高階会長】　　高階でございます。委員の皆様には、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

当有識者会議は、事務局から示された3つの論点、すなわち、東静岡から日本平、三保

松原に広がる地域の「場の力」を高める地域づくりのあり方、これが1点。第2に「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくりのあり方、そして第3に「文化力の拠点」のコンセプトや導入機能について、これまで2回にわたって会議を開催し、皆様から多岐にわたる御意見をいただいております。本日の第3回会議では、これら3つの論点を総括し、基本構想を取りまとめていく方向に持っていきたいと思いますが、この東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域は、今、知事からもお話しございましたように、至る所から富士山の美しい姿を仰ぎ見ながら、いわば歴史、伝統、生活、文化の中に富士山が息づく特別な地域でございます。

日本平や三保松原などからの富士山の眺望は、古から「信仰の対象」と「芸術の源泉」として、多くの来訪者や芸術家に愛され、我が国の文化に影響を与えてまいりました。富士山の世界文化遺産登録を契機に、当地域が国内外の人々を惹きつけ、憧れを呼ぶ「場」であることが一層顕在化してまいりました。この地域が持つ高い「場の力」を最大限に高め、富士山の名に恥じない地域づくりを進めることが必要であろうと思います。

本日は、この素晴らしい地域にふさわしい基本構想を取りまとめてまいりたいと考えております。委員の皆様には、これまで同様、さらに、取りまとめに向かっておりますけれども、御自由に、御忌憚のない、いろいろとまた論点が出てくるかもしれない。何でも構いません。御専門の分野と経験に基づいて、忌憚のない御意見をいただきたいとお願い申し上げます。御挨拶といたします。よろしく申し上げます。

【企画広報部長】 ありがとうございます。本日の会議の出席者でございますが、お手元にお配りしております委員名簿と座席表のとおりでございます。また、県及び静岡市の出席者につきましても、座席表に記載のとおりでございます。

本日は遠山委員、伊東委員、後藤委員及び中西委員につきましては、所用により欠席をされておりますので、御報告を申し上げます。

なお、皆様のお手元にお配りしたとおり、遠山委員から構想（案）につきましても、あらかじめ御意見をいただいておりますので、御参考にしていただきたいと思います。

これからの議事進行は、高階会長にお願いいたたく存じます。よろしく申し上げます。

【高階会長】 それでは、次第に基づきまして、本日の議事を進行いたします。

今回の会議では3つの論点、先ほど申し上げました、東静岡地区から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方、第2点、東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくり

のあり方、そして第3点、東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等、この3点に対しまして、これまでも2回の会議で委員の皆様からいただきました御意見を踏まえ、事務局で「“ふじのくに”の『文化力』を活かした地域づくり基本構想」(案)をまとめております。事務局からまず御説明をお願いします。

【企画広報部長】 それでは、事務局から御説明をいたします。失礼ながら座って説明をさせていただきます。

まず、「“ふじのくに”の『文化力』を活かした地域づくりの基本構想」(案)について御説明をいたします。

お手元の資料1を御覧ください。A3の横型のペーパーが4枚ほど入っております。この資料1は、資料2として別に用意をいたしました基本構想(案)冊子、本冊の概要を取りまとめた資料でございますので、資料2の本冊の説明を資料1に基づいて進めさせていただきます。

まず、資料1の1ページ、1枚目をお開きいただきますが、まず、左側、序章として、東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域が有する高いポテンシャル、いわゆる「場の力」、これをまず明らかにしております。

「場の力」の1つ目は、当地域が世界の宝「富士山」を仰ぎ見る最高の「場」であることです。当地域内の日本平は、富士山を仰ぐ日本を代表する景勝地であり、日本武尊^{やまとたけるのみこと}や徳川家康公などにまつわる神話・歴史・文化に彩られた「場」であります。また、三保松原からの富士山の眺望は、「信仰の対象」と「芸術の源泉」の両面から多くの人々に愛され、我が国の文化に影響を与えてきました。富士山世界遺産登録を契機に、富士山と深いつながりを持つ当地域の魅力が顕在化し、「場の力」が高まっております。

2つ目の「場の力」としては、当地域が東西軸・南北軸の交流の拠点であるということです。この地域は古の時代から東西の交流軸であり、現在も活発な東西交通の要衝です。平成29年度の中部横断自動車道の開通によりまして、山梨県や日本海に至る地域との新たな南北交流の可能性が広がり、新たなネットワークが形成されることで、東西軸・南北軸の交流の結節点となるこの地域の求心力が、飛躍的に高まることが期待されております。

3つ目といたしまして、当地域が本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」施設の集積エリアであるということです。資料左側、下の図のとおり、県立大学、静岡大学をはじめ、グランシップ、県立美術館、県立中央図書館、舞台芸術公園、草薙総合運動場などが集積しております。そして、それらが相互に連携した取組を進め、当地域の魅力を一

層高めています。

続きまして、資料の右側を御覧ください。第1章ということで、「場の力」の最大化を図る地域づくりでは、高い「場の力」を持つ当地域が、将来にわたり国内外の人々から憧れられる魅力溢れる存在であり続けるために、当地域全体の「場の力」の最大化を図る地域づくりのあり方を示しております。

まず、地域の目指す姿を、世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性のある地域とし、それを実現するための取組の視点として、日本平山頂を当地域の特別な「場」と捉え、「中心」とする視点、東静岡を「陸の玄関口」と捉える視点、三保松原を富士山の普遍的価値を証明する上で不可欠の構成資産と捉える視点、この3つの視点を掲げております。

地域づくりのあり方といたしまして、(1)「場の力」を高める「面」としての地域づくり、(2) 地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化、(3) 県都静岡にふさわしい地域づくり、この3つの柱を立てております。

1つ目の柱、「面」としての地域づくりにつきましては、個々の施設の魅力の磨き上げや施設間連携の強化、歴史・文化・神話等に根差したストーリーづくりなどにより、「点」から「線」、「線」から「面」へと高める地域づくりと、バス、ロープウェイ、水上交通等の利便性が高く魅力的な公共交通ネットワークの構築によりまして、「点」と「点」をつなぎ、「面」に高めていくことが重要であるとしております。

2つ目の柱は、地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化でございますが、これにつきましては、飛躍的に高まる交通利便性を最大限に生かした地域づくりを進めるとともに、大都市圏にはない静岡らしさ、地域に根差した歴史や恵みの磨き上げなど、個性や特徴ある地域づくり、日本平山頂に霊峰富士を眺望できるシンボル施設の整備など、地域の独自性の打ち出し、アイデンティティの確立が重要であるとしております。

3つ目の柱、県都静岡にふさわしい地域づくりにつきましては、東静岡、静岡都心、清水都心が相互に連携して「プラスサム」の効果を生み出す地域づくり、県と静岡市が連携して「場の力」を高める地域づくり、都市機能の向上を図る東静岡の県有地・市有地の有効活用により、新たな交流拠点をつくり出すことが重要であるとしております。

資料の2ページをお開きください。これまで御説明いたしました地域づくりのあり方のイメージとして、様々な取組を図面上にプロットしてございます。日本平山頂へのシンボル施設や、日本平と三保の間の利便性を高めるロープウェイなどの新しい構想に加えまし

て、三保地区における電線地中化などの眺望景観の改善、官民・産官学の協働による折戸湾の利活用の検討、大谷・小鹿地区における新インターチェンジを活用した交流、工業、農業、物流、居住機能を目指したまちづくり計画の検討、草薙駅周辺地区の整備事業など、県や静岡市の既に計画をされている事業等に関わるものも含めて、委員の皆様から御提案いただきました取組をプロットしてございます。

続きまして、資料の3ページをお開きください。基本構想の第2章といたしまして、東静岡駅周辺のまちづくりという記述の中では、東静岡駅の南北が一体となったまちづくりのあり方を示しております。

まず、目指す姿を、当地域の「陸の玄関口」にふさわしい「文化とスポーツの殿堂」とし、そのための取組の視点として、当地域の「陸の玄関口」にふさわしい美しく風格のあるまちづくり、“ふじのくに”の新たな拠点として賑わいを生み出すまちづくり、東静岡駅南北一体の統一感あるまちづくり、この3つの視点を掲げてあります。

そして、まちづくりのあり方といたしまして、「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたずまいの創出及び統一感あるデザイン、景観の形成、この2つの柱を立ててございます。

1つ目の柱、「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたずまいの創出では、国内外の人々が集うイベント・コンベンション等を継続的に開催し、“ふじのくに”静岡を世界に戦略的に発信していくこととしております。

例といたしまして、富士山をはじめとした世界の名山や、「食」や「健康」をテーマとした会議、アニメや漫画等コンテンツ関連のイベント、舞台芸術、オーケストラ、コンサートなどのイベントやコンベンション等が継続的に開催される舞台として、必要な機能を備えることが重要であるとしております。

また、玄関口として備えるべき情報発信や結節点の機能、レベルの高い本物の文化・芸術、スポーツに触れ・楽しみ・親しむ場、文化・芸術、スポーツを通じて多彩なふれあいを生み出す場としての機能が必要であるとしております。

右側にまいりまして、2つ目の柱であります、統一感あふれるデザイン、景観の形成では、富士山の眺望への配慮といたしまして、眺望を確保した建築物の形態や、「富士見」の場の創出、富士山の眺望を「借景」として活用することが重要であるとしております。

また、美しい景観のまちづくりとして、新幹線の乗客を惹きつける乗客を意識した美しいメッセージ性を持った景観形成、駅南北をつなぐ景観軸の形成、四季の花々や豊かな緑によるうるおいある景観形成、風格ある夜間景観の演出などが重要であるとしております。

さらに、3点目の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいまちづくりの統一感あるデザインの形成として、駅南北でデザイン・景観を一体的にコーディネートすることや、背景となります丘陵の緑に映えるような建築形態への配慮、新都市にふさわしい光、水、緑あふれるオープンスペースの確保、親近感あるデザインによる整備が重要であるとしております。

資料の4ページをお開きください。基本構想の第3章ということで、ここでは東静岡駅南口の県有地に整備を見込みます「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等についての記述をしております。

まず、目指す姿は、世界の宝「富士山」をはじめとする数々の世界水準の魅力を生み出してきた本県の高い文化力を国内外に発信し、人々を惹きつける「文化力の拠点」としてまいります。これを実現するための取組の視点として、「文化力」を通じて、世界の人々を呼び込む視点、大都市にはない静岡らしさ、個性や特徴のある発想、あらゆる人に向けて本県の「文化力」の高さを発信する視点の3つの視点を掲げております。

また、コンセプトは、「創造・発信」、「学ぶ・人づくり」、「出会い・交わる」の3つを柱としております。

導入すべき機能としましては、まず1つ目の「創造・発信」の柱につきましては、静岡の「場の力」を生かし、個性ある文化を創造し、磨き高め、国内外に向けて「文化力」の高さを発信する拠点機能を掲げております。具体的には、機能例のところに示しましたように、日本平や三保松原の歴史的・文化的価値、適切な保存管理の必要性等の理解促進、「食」、「茶」、「花」など本県の地域資源の国内外への発信、文化施設間の連携・交流を促進するセンター機能、アニメ・コンテンツ等による新たな文化の創造・発信を掲げております。

また、食文化や、農業、林業、水産業の恵みの豊かさや、世界水準の自然の美しさを実感できる機能として、機能例にお示しするように、静岡が誇る「食」、「茶」、「花」など農林水産資源の魅力を発信する機能や、和の食を堪能する機能、世界水準の魅力を発信する機能などを掲げております。

次に2つ目の「学ぶ・人づくり」の柱につきましては、次代の静岡を担う若者が集い、地域に根差した活動や、静岡ならではの学びができる機能といたしまして、大学コンソーシアムを中心とした地域人材の育成、大学間や、大学と地域社会との連携を促進する機能など、また、世代を超えて集い、生涯を通じて学び、楽しみ、自らを高める機能として、

美術館、博物館、図書館などの生涯学習のニーズに応える「知」の拠点としての機能などを掲げております。また、歴史の観点から静岡を学べる機能といたしまして、静岡を学び、再発見できる展示機能や、古代東海道の遺構を活用した広場などを掲げております。

次に、3つ目の「出会い・交わる」の柱につきましては、東静岡から日本平、三保松原に広がる地域の玄関口にふさわしい交流の核となる機能といたしまして、展望ルームや多様な形態の宿泊施設、飲食施設などによるMICE（マイス）受入環境の充実、カフェテリアやミュージアムショップなど、人々が出会い、交流を深めることができる機能を掲げております。また、留学生支援により、海外との多彩な出会い・交流の創出、産業面からも海外とのつながりを深める機能といたしまして、留学生支援や多文化共生の拠点、産業のグローバル化や国際交流を促進する機能など、また、人と人とのふれあいが将来の暮らしに明るい展望を生む場としての機能として、出産・子育てを支援する施設や、出会いのスポットなどを掲げております。

なお、その他にも、委員の皆様から導入すべき機能についての御意見を多数いただいております。詳細につきましては、資料2の本冊を御覧いただきたいと存じますが、今後、「文化力の拠点」の整備に向けまして、基本計画の検討を進めてまいります。その検討に合わせまして、導入すべき具体的な機能の絞り込みも行ってまいりたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

【高階会長】 続きまして、ただ今説明がありました基本構想（案）の立体イメージを確認いただくために、事務局が3D映像による立体イメージを作成しているとのことですので、事務局から御説明いただきます。

【企画広報部長】 御説明申し上げます。日本平のイメージが湧くような3D映像とか、ジオラマとかいうお話を前回いただきました。ジオラマはちょっと間に合わなかったのですが、3D映像を作成してまいりましたので、御覧いただきたいと思います。

この映像では東静岡駅の南口に整備を見込んでおります「文化力の拠点」、ここからの眺望を御覧いただいた後に、東静岡駅周辺から草薙総合運動場付近、さらには日本平動物園付近を経由いたしまして、日本平山頂に移動してまいります。富士山を仰ぎ見る最高の「場」であり、前回の会議で文化・観光部の方からもシンボル施設の整備に向けた基本的な考え方を御報告させていただいております日本平山頂部では、富士山をはじめ、伊豆半島、駿河湾等の眺望を御覧いただきます。そして日本平の山頂部から三保松原へと移動してまいります。新たに構想として御意見をいただいておりますロープウェイ、その動きに合わせ

たような視点での富士山の眺望、そのようなものを作成してまいりました。5分程度の映像となりますので、スクリーンを御覧いただきたいと思います。

【事務局】 それでは、ただ今から当地域の立体イメージの映像をスタートさせていただきます。

はじめに、当地域の玄関口となります東静岡駅周辺から御覧いただきます。西側上空から東静岡駅周辺に近付いてまいります。駅南口の県有地には「文化力の拠点」のイメージとして、平成23年度に静岡文化芸術大学に作成いただいた建物のイメージを配置しております。敷地の北側は、古代東海道を活用したオープンスペースとし、駅とペDESTリアンデッキで接続しております。なお、本日の動画には、緑化等を入れてございませんが、有識者会議で御意見をいただきましたとおり、建物の屋上緑化や、緑があふれるオープンスペースなどを検討してまいります。

それでは、動画を再開いたします。

次に「文化力の拠点」の最上階からの眺望をイメージした映像を御覧ください。グランシップの左手に富士山を眺望することができます。視界を日本平方向に移動してまいります。日本平の豊かな緑、そして山頂を見ることができます。

次に、東静岡駅周辺から日本平山頂に移動してまいります。この4月にオープンする草薙総合運動場このはなアリーナ付近を經由し、県立美術館や県立大学を眺めながら、緑広がる日本平の山裾に近付いてまいります。舞台芸術公園越しに富士山を眺めながら山頂に向かってまいります。

右手に見えますのは日本平ホテルです。間もなく当地域の「中心」とする日本平山頂になります。山頂のデジタル鉄塔の黄色の付近には、前回の会議で報告しましたとおり、山頂シンボル施設の検討を進めてまいります。

次に、日本平山頂部からの眺望でございます。世界遺産富士山をはじめ360度のすばらしい景観を御覧ください。三保半島、その先には伊豆半島が見えております。南側には駿河湾が大きく広がり、手前には久能山東照宮が眼下に見えております。

右手から見えてまいりましたのは御前崎です。眼下には静岡大学、東静岡駅周辺、このはなアリーナ、舞台芸術公園、そして、県立美術館、県立大学など、「学術、文化・芸術、スポーツ」施設が集積している状況を見ることができます。また、遠方には、南アルプスの美しい山並みを眺望することができます。

最後に、日本平山頂部から三保松原方面にロープウェイで移動してまいります。ロープ

ウェイのキャビンからの眺望をイメージした映像を御覧ください。日本平山頂を出発しまして、富士山を正面に仰ぎながら眼下に「海の玄関口」、清水港を見ながら下っております。右手から三保半島が伸びてまいります。眼下には三保松原まで広がる地域一帯を眺めることができます。遠方には駿河湾、そして、伊豆半島を眺めながら、間もなく山麓の果樹研究センターに到着いたします。

映像は以上でございます。映像で御覧いただきましたとおり、当地域は至る所から富士山を仰ぎ見ることができ、美しい自然景観に恵まれた地域であります。

【高階会長】 ありがとうございます。それでは、これから意見交換に入らせていただきます。ただ今事務局から「“ふじのくに”の『文化力』を活かした地域づくり基本構想（案）」の説明がありました。構想は、9月の第1回会議及び12月の第2回会議で皆様に御発言いただいた御意見を踏まえ、事務局で（案）として取りまとめたものです。

さらに、この機会に皆様からの御発言をお願いしたいと思います。御自由に、どなたからでも結構です。最終的な構想（案）に、是非盛り込みたいということをお出しいただければと思います。いかがでしょうか。

【芳賀委員】 今、映像を見せていただいて、あれは大体地上高さ50メートルぐらいを、ヘリコプターで移動して行った感じですか。最後の部分はロープウェイで移動した感じですか。

【事務局】 ただ今の質問にお答えいたします。場所によって若干高さは異なっております。「文化力の拠点」の最上階は、グランシップと同じ高さ60メートルからの眺望を見渡してございます。

【芳賀委員】 要するに、こちらの「文化力の拠点」も、高さ60メートルのグランシップと大体同じぐらいの高さにつくる予定なのですか。

【事務局】 それ以下に抑えるという前提の中で見渡してございます。

また、日本平の山頂の方に向かったところは、市街地は80メートル程度、また山裾が、尾根の部分は15メートル程度を通っているところがございます。また、日本平山頂部で360度見渡しましたが、あそこは高さ概ね20メートルぐらいの地点からの360度の眺望を見ております。

また、日本平山頂から果樹研究センターまで、ロープウェイをイメージしたものにつきましては、支柱に合わせまして15メートルから20メートルの高さでの眺望でございます。

以上でございます。

【芳賀委員】 そうすると、本当にロープウェイを張った場合に、周辺に見える風景が広がったのですね。

【事務局】 そういうことでございます。

【芳賀委員】 では、ここの「文化力の拠点」は60メートルですね。かなり実感がありました。で、本当にロープウェイがひかれれば、あのような風景が、眼下に、目の前に見えていくわけですね。

【事務局】 というような考え方です。

【高階会長】 良いですか。はい。では、他にどなたか。

【木苗委員】 木苗です。前回の会議で提案した3Dの映像を見せていただき大分イメージが湧いてきました。お手数をおかけしました。結局、最終的なゴールを、今話し合っていますよね。そして、それを例えば今年中にまとめ、その後どのようなスケジュールで進めるのでしょうか。というのは、時代とともにいろいろなものが変わってきますので、その中で、例えば、5年後なり10年後にこういうものを目指していくとか、その辺が未だイメージ湧きません。

私が言いたかったのは、このように3Dの画面を通してかなり身近に感じだし、イメージが湧いてきました。問題は、この後、全体的に例えば5年後、10年後に目指すもののイメージが湧かない。時代とともに各地域でいろいろなものを考えますし、その中で、我々がどこを、いつ頃をゴールにして考えるのかで、随分まとめ方が違うような気もするのですが、その辺はいかがなのですか。

【高階会長】 いかがでしょうか。ハードのものはもうすぐにでもとりかかるようにする。あるいは何か目標があるのですか。オリンピックとか。

【企画広報部長】 一応事務局で考えておりますのは、今回東静岡から三保松原に至る全体の基本的な構想について、「文化力」を生かしてどう人々を惹きつけるかという構想全体をまとめていただきますが、その中で私どもは駅の南口の県有地に、その中の拠点をこれから整備していくということで、先ほどの説明の時も少し触れさせていただきましたが、皆様方から、「文化力の拠点」に入れるべき機能について様々な御提案をいただきました。今後、その検討を進める中におきまして、最終的に建物の高さ、大きさが決まります、キャパシティが決まりますので、その中にどういう機能を入れていくのかというのが、これからの絞り込みになってまいります。そういうことで、建物の方の基本計画というのを新年度から検討に入っております。

そういうことをだんだんしていきまして、今度は建物の基本設計、詳細設計という形になりますので、すぐに、これが建物の形が出てくるかということには、まだ少し時間がかかると思います。

それともう1点は、やはり、この建物の中で中核となっていていただくところというのは、地域・大学コンソーシアムです。コンソーシアムの皆様方が、当初、東静岡で学住一体のまちづくりの核として、若者が集い、にぎわう施設としての機能を、是非ここに入れ込むという構想から、さらには「文化力」ということで、今大きく広がっておりますが、そのベースとなるところの組織、先生の方が一番よくお分かりかと思いますが、そちらの進み方とも歩調を合わせながら、そしてまた、この建物自体を運営するに当たっては、民間の活力を入れていきたいと思っていますので、そういう事業調整等もしつつ進めますので、南口の拠点についてはすぐということではなく、じっくりまだ検討する時間をいただきたいなと思います。

【木苗委員】 大体分かりました。ただ、例えば静岡市の場合も、草薙周辺でもいろいろなアイデアを検討しております。そういう点も含めて考えると、例えば、オリンピック・パラリンピックは2020年ですよね。だから、1つの目標があっても何かやっていかないと、結局ずるずるいってしまい、あれ、最後どうなるのかなって、その辺の終着点といえますか、時期が分からないので何かイメージが今一つ湧かないですね。図は分かったけれど、さあ次はどうなるのでしょうか。

【企画広報部長】 先生、ですから、今のところのイメージとしては、そこまでには施設はできあがっております。

【木苗委員】 はい。分かりました。ありがとうございます。

【芳賀委員】 5年後、10年後というのでは先過ぎます。我々はとても生きているうちに見られないですね。

【企画広報部長】 2桁までは行きません。

【芳賀委員】 再来年あたりにつくっちゃって。

【高階会長】 はい。他にいかがですか。

【芳賀委員】 今日、映像を見せていただきましたが、建築家の内藤さんとか坂さんがいらっしゃるのだから、この人たちが今、ぱーっと頭に浮かぶのを黒板にでも書いてもらえばどうかと思う。丸いとか、新幹線から見ても格好よくて、近付くと立派で、花があって、緑があって、おいしいものあって、学術があって、芝居も音楽もあって、レストラン

ンもあって、富士山の中に。ものすごく贅沢ですね。盛りだくさんでそんなことできるのですか。

【内藤委員】 坂さんと2人で今からやりますか。

【芳賀委員】 丸い建物なのか四角い建物なのか。富士山みたいな、こんな建物なのか。どれぐらいの高さなのか。先ほどは60メートルという、グランシップと同じ60メートルとのことでしたが。

【内藤委員】 寒竹さんもいるではないですか。寒竹さんが分かっているのではないですか。

【高階会長】 ある程度イメージがあるのですか。

【寒竹委員】 いや、イメージといいますか、先ほど説明がありましたように、大学の方で2年ぐらい前に、その計画を少し担当したのですが、今、説明を聞いていまして、少し話させてもらいたいのですが、資料がまとまっている中で、私が感じるのは、静岡とか駿河とか清水という言葉というのは、縄文期の言葉から来ているような言葉なのです。

東京とかいったら、まるで意味が東の京です。

この地形というのが縄文期であると、世界遺産としての伊勢があります。熊野という、熊というのは山ですね。熊野の山があって、伊勢があって。で、出雲、出雲は出雲の背景に多様な山があって出雲がセットされている。ここは、それ以前の場所ではないかなと思います。ですから、もう少し大きく出てもいいのではないかと。そういう縄文の言葉というのは、今の日本語でもほとんど残っておりまして、ですから、当時は、その景観ですね。だから、地形に対して名前をつけて、それをその空間としていくという、今、景観に配慮し出したこの時代というのは、縄文の時代的な空間を捉えているということなのです。そうした時に、例えば、日本平が伊勢で、富士山が熊野三山という形にした場合に、東静岡駅の周辺というのは、それのおかげ横丁ではないですが、何か、そこへ入るまでの空間。ですから、建物だけを建てるという感じではなくて、場をつくるといいますか、広場、その建築群が、そこにその空間をつくり出すような形で、その場所だけではなく、周りも考えた形で建設していったらどうかという提案をさせていただいております。

ですから、何ていいますか、あともう一つの三保松原。日本平が基本的に伊勢神宮、富士山が熊野三山。三保松原がやはり存在意義が大きいのは、結局、日本の中では海越しに富士山が見えるのはここだけなのです。伊豆半島まで行けば別ですが。結局、天女の話も、多分場所は、海の向こうに富士山が見えて、富士山が天ですね。そういう何か、ここにし

かない特殊性を生かすような空間群をつくっていくべきかな、という感じです。

【芳賀委員】 それでもまだ少し漠然とし過ぎている。

【寒竹委員】 まだ漠然としていますか。

【芳賀委員】 三角か、富士山か。

【寒竹委員】 三角、丸、四角は、個人の偶然ですから、私はもっと「場」が持っている、宇宙の必然みたいなものが形をつくり出していくような計画をしていった方がいいのかなと思います。

【芳賀委員】 宇宙の必然。

【寒竹委員】 だから、丸にするとか、四角にするというのは、その時代のその個人の単なる偶然ではないですか、その人の。何をつくるとかいうことではなく、もっと大きく構えて、この「場」を生かすような空間づくりが重要であり、そのスタートが東静岡駅前であると思います。

私が思うのは、東静岡という名前を変えた方が良いのではないかと。静岡の東というだけで全然中心性がない名前です。ですから、ここは一つ名前を変えるというぐらいの、ここに名前が命名できれば、大体コンセプトは固まったような形になるのではないかなと思います。

【高階会長】 はい。他にいかがでしょう。

【芳賀委員】 名前は何て変えたら良いですか。変えたら良いとおっしゃっても、どのように変えたら良いか。

【寒竹委員】 名前は、だから駿河、静岡、清水というのは、道に関係するらしいのです。全部「S」で始まっています。それがなまってきて、あとは当て字で字を置いていつている感じです。なおかつ、当時は、結局、道をつくるには、やはり山など目印が要るわけです。ですから、これは日本の道の中で一番大きな目印のある場所です。名前に何が良いかと急に言われても浮かびませんが…。静岡、清水も似たような道に関係した名前、駿河もそうです。だから、そういう大きな道と大きな山と大きな玄関場所、先生の方が、そういう名前はお上手なはずですが。

【高階会長】 「焼津」とか「草薙」とかというのは歴史的な由来があるわけですが、それはかなり生きている。

【芳賀委員】 なら日本平という駅にしたらいかがか。

【寒竹委員】 それが一番良いと思います、日本平。

【芳賀委員】 日本平に行くにはあそこで降りる。それで今日決めましょう。いろいろな同じようなことは、何度も出たし盛り込まれて、ちっとも進んだ感じがしないので。

【田辺市長】 良いと思いますよ、日本平。

【芳賀委員】 良いでしょう。日本平。で、隣が草薙で、この辺がヤマトタケルという、静岡県ヤマト郡とか何か言って。

【田辺市長】 日本平は、陸の玄関口としての入り口、ゲートウェイですからね。

【芳賀委員】 そうですよ。入り口ですからね。

【田辺市長】 はい。

【芳賀委員】 あそこは、駅のところは平らですし、そこから登って行く。

【田辺市長】 賛成です。

【芳賀委員】 決めてしましましょう。もたもたいつまでも議論していないで、早く片っ端から決めていってください。丸いか四角いか、今の縄文の話では、全く雲つかむみたいでさっぱり進まないではないですか。

【寒竹委員】 そういう意味で言ったのではなく、基本的にゲートという意味がもともとあるということですよ。駿河には。

【高階会長】 駿河ね、はい。

【川勝知事】 では、東静岡駅は、日本平口だ。

寒竹先生、また寒竹研究室に2年余り前に、書いてもらったものがあるのです。で、あの時にもう既にコンソーシアムの、すなわち静岡県下、これは先生にやっていたいておられますけれども、それを入れると。場所はそこが良いと。東からも西からも来られる。そして、若者が集う、それから社会人も集える。したがって勉強する場所、また、泊まれる方がよいということもありました。

それから、図書機能も必要だと。一方、図書というのは県立中央図書館がございしますが、あそこはややアクセスが悪いということがあります。しかし、図書館としては立派なものであり、近くに県立大学や美術館がありますから、それと連携をしながら、もう少し市民のためのライブラリーといいますか、今の時代は情報を使わなければいけないので、最新式のそうした装置を持ったライブラリー機能と情報施設、そうしたものも必要ですと。ですから、幾つかはもう決まっているのです。そして、建物の高さは、先ほどの映像にもございましたが、容積率はこれだけだということで、勝手にすごい高い建物を建てたりして、駅からの景観は非常に見苦しいです。

ですから、東静岡駅、日本平口駅に来た時に、ざーっと周りを見る景観が非常に注目を浴びるようにしなくてはならないということで、それは、グランシップがもう既にありますから、その高さをそろえるということはとても大事なのです。グランシップ自体は何階ありましたか？11階……、それぐらいの高さがありますから、それぐらいの高さのもので、屋上に行けばグランシップ越しに富士山を眺望できると。だから、屋上庭園的なものが当然ございましょう。ですから、天気の良い時に、そこで楽しめるようにするということがあります。

それから、建物の東海道線寄りの所が旧東海道です。古代の東海道です。かなりこれぐらいの広さがあります。ですから、ここはある意味でウォーキング、歩く所です。それはそのままずっとグランシップを越えて、草薙の方に向かっていく道になるわけです。この道というのが、先ほど、寒竹先生が言われましたが、少なくとも草薙総合運動場まではそれほど遠くありません。ですから、歩いて全く退屈しないような道にする必要があります。

そしてまた、大谷川放水路ですか、水の空間がありますが、あれは3面コンクリートで非常に見苦しいです。その水辺の空間というのを、水を活用しながらつくっていくことができます。

ちなみに、今度、金沢まで北陸新幹線が走りましたが、金沢駅から兼六園までは4キロメートルです。それを全く退屈しないで歩けるように金沢市は工夫をしています。こちらは、はるかにそれより短いです。ですから、その草薙総合運動場までは歩ける空間にしていくというようにしますと、日本平の久能山の麓に来たという感じになりますから、あとは一気に、動物園だ、あるいは美術館だ、あるいは図書館だ、大学だということになります。反対側も、その建物については何を入れるかが決まれば、あとは設計にすぐ入れます。

ですから、荒木先生、もっと早く言ってください。図書機能が入ることが分かっているし。そうすると、現図書館と、新図書館の機能分担をどうするかと。あそこは研究図書館にするとか。で、こちらは言ってみれば、一般のためのいろいろな人が集える、また、いわゆる外国人とも対応できるようなものにする。それからまた、当然音楽会であるとか演劇であるとか。そうすると、あと食事をするとか、場合によっては泊まれる人もいらっしゃるから、そういう機能を持っていた方が良いということです。そうすると、当然飲食街だとかというものがありますから、どのゾーンをどうするかということが出てくると思います。我々、その文化の道をずっと日本平口から大谷川放水路を通して、直角に折れ

て、草薙の総合運動場に出ていく。この道は、非常に重要な道になると思います。で、日本平の反対側の所、日本平の頂上のところは何か卵の形になっていますが、あそこは何か生まれる。だから、日本平の頂上は、どういう建物にするか。これは、非常に重要です。これは360度の方角が見られる所だということになるし、東西南北と、例えば、鬼門の方向の北東と、裏鬼門の南西とかいうようなイメージにすれば、大体、東、北東、それから、南東、南、こういうように8つぐらいの方角を分かるようにする。8つにすると、例えば八角になります。そうすると、もう法隆寺の夢殿のような形になります。で、そこから、三保松原までは、すーっと下りて行けるようにするためのロープウェイです。

先ほど、果樹研究センターというのがありましたが、果樹研究センターは移転します。したがって、あそこは自由な空間です。あそこは、いちご狩りをしたりする人だとか、あるいはそういうものをおいしくいただくような空間だとか、もともと柑橘がそこに植わっておりますから、そのイメージを活かしたものになるということで、大型バスも停まります。そして、5分で一気に300メートルまで上に上れるということで、これは静鉄さんだとか、あるいは他の交通機関と一緒に、どこにロープウェイの基地をつくって、上に上がって行って、上がっていったところで、今度は久能山東照宮への連絡ということがあります。これは今、これから新しいものに変えられるということを伺っておりますが、それとの連結を円滑にするようにしておくと、ロープウェイでいきなり果樹研究センターから日本平へ行って、日本平のところから、すぐ久能山の方に行ける。その逆も真なり。また途中で、途中下車をして楽しむことができるということになります。

ですから、差し当たって、すぐに取りかかれるのは、その果樹研究センターの整備です。それからロープウェイをどのようにつくるか。それから、頂上の施設です。ここの所は展望と、ある程度迎賓的な機能も、お客様がいらっしゃるのでもった方が良いでしょう。それから、軽食というか、そうしたものも必要でしょう。ある程度の富士山についての情報というものも、世界遺産センターなどから出てくるような成果が富士山絡みで見られるようにしておくことも大事でしょう。ですから、富士山に関わる非常に楽しい、言ってみれば、ちょっとした博物館機能を持ったエンターテインメントの楽しめる、景観を楽しむ場所と、それもわりとはっきりとコンセプトをつくれますから、それで設計に入れます。ですから、ロープウェイ、果樹研究センター、それから一番上の展望台施設、それから道、東静岡の日本平口から草薙に行く道、そしてそこは当然、東海道をある程度復活させる必要があります。そして、先ほどのコンソーシアムだとか、あるいは図書館機能だとか、あ

るいは飲食機能だとか、賑わいの空間をつくるための、そういうものをイメージするような建物、これはそれでいいということであればつくっていくと。

例えば、グランシップは音楽の響きが悪いと言われます。しかし、邦楽にはすごく良い。演劇にも良い。だけど、多目的ホールですから。例えば、金沢も降りてすぐ右側のところに、邦楽と洋楽とを背中合わせでつくっている、あれがありますね。グランシップは中ホールは邦楽にはすごく良い響きだそうですが、洋楽にはだめでしょう。ですから、グランシップにそうしたものを仮につくるとすれば、そうしたホールを考えなければいけないかもしれません。

ただ、そういう空間はありますので、私は東静岡、今、駐車場になっている所、それからグランシップの広場になっている所、あそこをどうするかというのは、明らかに、坂さんにしても内藤先生にしても、目が、俺がやるぞという感じになっています。そういう非常にやりがいのある場所です。そこと頂上とは皆様方の仕事になるのではないのでしょうか。

【高階会長】 いかがでしょうか。今の他、荒木委員。

【荒木委員】 川勝知事の御指名ですが、私が話をすると非常に現実的になってしまいます。それで、具体的に今、川勝知事が話してくださったような方向性は賛成です。それは、ひとえにこの地域としての静岡市のものだけではなく、静岡県全体のものであって欲しいと思います。熱海から浜松まで非常に細長い県でございます。あそこに建てる建物の中身もそのことを考える必要があります。私たちは是非、大学コンソーシアムとしても実現したいと思っているわけですが、やはり距離がかなりありますので、静岡県内の大学、あるいはいろいろな高等教育機関がそこにアプローチできるということが必要だと思っています。

それは、遠路であっても常に訪れるという時代が来るかもしれませんが、今のところ、最速でも新幹線を使ってということになってしまいます。その時に静岡県全体の底上げをする。大学においても、現在は首都圏に7割以上の学生をとられています。静岡県の高校生がたった3割弱しか入らない。これはとんでもないことです。ですから、静岡県全体の底上げのために、このコンソーシアムの新しい施設が使われなければいけないと私は常々思っています。

そのためには、1つは、常日頃、そのところにアプローチできることが必要です。今の時代ではSNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）を使うということが、かなり

発達しています。その発達の程度というのは、我々の予測がつかないほど早い。ですから、今後は大きなサーバーとかなくても、どこにいてもほとんど授業を受けられるという状況になる可能性があります。でも、今のところは、そのための施設が必要です。建物の建設は何年後かという話がありましたが、やはりその場合には情報関連の設備が必要です。そんな考え方を中に入れていただきたいというのが現実的な願望でございます。

むしろ、静岡県にある大学がこぞってこのようなことに対応するという認識を、持っていていただくの方が、もうちょっと重要な問題です。というのは、やはり東^{とう}中^{ちゆう}西^{せい}という地域ごとの陣取り合戦みたいなことをやっていたはいけませんで、集中するというところのメリットを享受するべきであると、このように思っている次第です。具体的にどうするかというのは非常に難しいのですが、やはり設備がそういう人を呼ぶかもしれません。

以上でございます。

【高階会長】 他にいかがでしょう。今の知事、それから荒木委員のお話、私は司会ですのであまり言うてはいけないのですが、もちろんハードは大事です。同時に、中に入れるソフトというか、やるべきこと、知事のお話の中で、特に大学コンソーシアムとの関係、私はここでもいろいろ人を呼び込む、「文化力」が人を呼び込む、留学生や若い人を呼ぶことは大変結構だと思うのですが、それと同時に、特に歴史に関して、世界的に、国際的に、非常に専門的な研究施設としての役割がどこかで必要だと思うのです。

そして、例えば江戸の文化、それこそ徳川の文化力の基である文学でも思想でも技術でも良いのですが、専門の研究を世界から呼び集める。その場合には、では、この施設ではなく、大学コンソーシアムがやるか、宿泊をどうするか、例えばイメージとしてあるのは、ハーバード大学が持っているフィレンツェのイ・タッティ研究所のようなものです。あるいは、専門の世界の人々を集めるゲッティセンターのようなものでもいいのです。そういう一般のお客さん相手ではない、しかしそれこそ歴史の一番深いところをやる。そうすると、研究資料センターみたいなものが要る。それを大学とうまくコンバインできるような形で、そして、そのうちのある部分は建物に入れるとか、その辺をはっきりしないと、建物の形が三角だろうが、羊かん型だろうが、中身をきちんと注文を付けておきたいという気がいたします。いかがでしょうか。

【芳賀委員】 だから、要するに歴史についても、殊に今度は家康400年でやるわけですから、徳川文明についての世界的な、日本の真ん中の、日本の真ん中か世界の中心になる研究センターがここに設けられる。その研究センターの活動の一つとして、下で市民向け

のカルチャーセンターですか、ああいうものになる。ここにコンソーシアムやムセイオン静岡も関係してくる。

それから、徳川文明の、世界レベルの専門的なセンターが、この建物の中にあるかどうかは別としても、とにかく今回つくられる。その対社会的普及活動として文化センターがここにある。ここでは、いわゆるカルチャーセンター的な、市民相手、学生相手の講義もしょっちゅう行われる。

だから、このセンターには、この部屋ぐらいのセミナー室も欲しい。それから、もう少し広くもう少し天井が高くて、後ろが階段教室になっていて低いステージで講義をやっている。それから、弦楽四重奏もできる。それから、一種の簡易パフォーマンスもできるという部屋が2つか3つぐらいあるといいですね。こちらでは徳川文明を論じている、隣ではアフリカのキリマンジャロの火山、あれは名山かどうかということについてセミナーをやっている。向こうでは富士山の、静岡県の植物についての国際シンポジウムをやっている、3部屋ぐらい、そういうのがある。1フロアに2つでもいいし、3フロアでもいい。

今、高階会長が言ったような、最高レベルの国際的な専門化した研究センターは、どこかトップにあるか、地下にあるか。

【高階会長】 それは大学の中に入るのか。

【芳賀委員】 静岡県立大学も国立静岡大学も東海大学もそういうように思うのですね。いいですね。

それから、富士山と言うけれども、いつも考えているのは、富士山だけではなく世界の名山の研究センターです。富士宮にできるのは富士山世界遺産センターですが、ここでは富士山ばかり言わないで、キリマンジャロはどうなのか、それからギリシャのオリンポス、あれも歴史、信仰の対象、芸術の源泉ではないか。あるいは、現在にどうつながっているか、生きているか死んでいるか、そういうことをやる。そのときはギリシャの専門家もやって来る。それから、インドネシアの向こう、バリ島のあたりは3,000メートル、5,000メートルぐらいの火山が4つか5つ連なっていて、しょっちゅう爆発している。あそこの原住民というか、あそこに住んでいる人たちと火山はどういう関係にあるか。それから、中国の五山はどうなのか、そういうことをしょっちゅうやって、これも、今、高階会長の言う学術専門センター、そういうところでやれるといいですね。

【川勝知事】 おっしゃるとおりで、大学コンソーシアムというのは、例えば京都駅のところにございますようなああしたものです。これは今までどおりのイメージで言われて

いたのです。しかし、SNSを使うとか、あるいはコンセプトとしてパクス・トクガワナーセンター、こうしたものを入れる。あるいは、山の方は、場合によっては、ふじのくに地球環境史ミュージアムというのが実はこの一角に、来年3月に開館します。

【芳賀委員】 それから、夢殿なんか、そういうのもいいです。

【川勝知事】 そうですね。そういうものを楽しめるような場所でなければいけません。しかし、一番頂上は自然それ自体が芸術ですから、それを十分に楽しむための力をつけるような、そういう施設だったら良いと思います。しかし、そこに登るには、久能山のすぐそばですから、パクス・トクガワナーというの、今年400年だからこれは入れろと言われれば、パクス・トクガワナーセンターを。そうすると、これ、いきなり比較研究できるでしょう。同じ時代、17世紀から19世紀における中国や、あるいはインドや、あるいは中東や、あるいは特にヨーロッパというものと、アメリカとか比較すると、アメリカの場合、何もなかったじゃないかということになって、これはパクス・トクガワナーの時代というものをどこで立ち上げたらいいかといえ、静岡県しかないですよ。

【芳賀委員】 まあ、そうですね。

【川勝知事】 家康さんのところですから。

【芳賀委員】 18代将軍も。

【川勝知事】 そうです、恒孝さん。

【坂委員】 よろしいですか。

【高階会長】 どうぞ。

【坂委員】 少し建築的な話を。あまり今までみたいにプロポーザル方式で普通にコンペをやり、何か建物を選ぶというよりも、今ここも一つの日本平に対してはゲートだという話がありました。それと、富士山をどう見るのか。それから、富士山を目の前にしてどんな形がつかれるのかって、すごくチャレンジングだと思うのですが、もう何か建築をつくるというよりも、例えばパリで凱旋門の先にデファンスという町をつくったときに、新しい新凱旋門をつくったように、1つゲートをつくったらどうかと。もちろん、図書館とか、基本のここに入れるべきプログラムというのがある程度あるわけですから、その基本的なものだけを入れた巨大なゲートをつくり、そのゲートからピクチャーウインド上に、富士山がきれいに囲われてフレームとして見える。

【芳賀委員】 そこにロープウェイが下りてくる。

【坂委員】 例えば、デファンスという新凱旋門の下にも、ピーター・ライスという構

造家がテントをつくったのです。その大きなゲートの下で、毎年新しいコンペをやって、世界中の建築家、そして若い建築家に仮設の建物、パビリオンをつくってもらう。毎年毎年それをつくって話題になる。ロンドンのサーペンタイン・ギャラリーでしたか、そこを毎年いろいろな建築家に仮設のパビリオンをつくってもらっているのです。それが今年は誰が選ばれるだろうということが話題になり、またそれを世界中に建築のコレクターもいますので、パビリオンが売れたりすると建設費が出るのです。

そうやって、本当に基本的なゲート、富士山がきれいにはまるゲートを基本的な機能だけでつくり、富士山が見える、そこに毎年新しいパビリオンが国際コンペでつくられていて、またそれを売っていったり、毎年継続的に何か話題になるようなものをどんどんつくって、このゲートさえあれば、建築は防水さえあまり考えなければ、意外に簡単にできるのです。だから、ゲートさえあれば、その下につくるのは意外と楽、あるいは風荷重も低減できたら、すごく仮設のものをつくるのが楽で、それこそ若い人は3Dプリンターで建築をつくってしまうかもしれないし、何かそういうものを毎年毎年選んでつくっていったら、それだけでも話題になります。

【高階会長】 いいと思います。それは、要するに場所が一番問題ですね。富士山を見て、どこに、草薙につくるのか、日本平の上につくるのか。

【坂委員】 今の場所です。駅の横の。

【高階会長】 駅の横につくる。

【芳賀委員】 でも、デファンスのゲートは四角過ぎるよ。

【坂委員】 それは、ですから、それはこれから考える。

【芳賀委員】 もうちょっとやわらかい。

【高階会長】 何かしかし、そこは建物自体ではなく、そこが入り口みたいになるということはいいと思います。しかし、デファンスの新凱旋門もいろいろ中に施設がありますよね。かなり太い、ただの柱ではなく、エレベーターもあり、機能が随分大きいものですから。そういう機能は必要だと思います。

すいません、ほかに。いろいろ注文をつけてほしい。どうぞ、内藤委員。

【内藤委員】 私、最近一番びっくりしたのは、草薙総合運動場の体育館で現場に行くので東静岡の前を通ると、青く光るすごい建物ができているんですね。これは一体何だという感じです。ひょっとしたら東静岡で一番目立つ建物が駅前の通りの真っ正面にできています。せっかくまちづくりをやろうとしているのに、一つの建物がそれを台無しにして

いる。ここに県とか市とかが一生懸命社会資本を投下しようとしても、いろいろな予測不可能なものが出てくる可能性があり、それをどうしておくかというのは、やはり、ちゃんとしておいた方が良いのではないかなと思います。

古事記の世界とか、家康とかという話でいうと、僕は「品格」という言葉をちゃんと言った方が良いと思うのです。東静岡の開発にはちゃんと「品格」が要ると。例えば、必要であれば景観規制をかけて抑えた上で、公共の側が見本をやるというぐらいのことをやらないと、滅茶苦茶になってしまうのではないかという気がします。

【高階会長】 大きいあれが。

【内藤委員】 それがすごく心配です。なので、景観法という法律が2004年にできましたが、これは最強の法律で、やろうと思えば何でもできますから、それを使って少し一回見直しをしたらどうかと思います。それが1点です。

それから2点目は、すごくつまらない話ですが、先ほど「文化力」という話が知事からもされましたが、僕は「文化力」を言うのであれば、このレポート自体は、レポートのデザインもちゃんとやるべきだと思います。エディトリアルデザインというのをやるべきです。エディトリアルデザイナーをちゃんと1人入れて、あるいはグラフィックデザイナーを入れて、格好良いレポートだなと一般の人が見ても分かりやすく格好良いものをつくるべきだと思います。

【高階会長】 ありがとうございます。他にどうぞ御意見、御注文。今後とも、しかし、そういう発想は必要だと思いますが。はい、どうぞ、東さん。

【東委員】 今のお話があったように、私も東静岡から日本平、三保松原までの対象エリア全体の景観計画というのを立てるべきだと思います。先生がおっしゃったのはパチンコ屋さんだと思うのですが、大変巨大なパチンコ屋さんです。取り壊された時、別の施設が建つのだと思いますが、新たに宇宙船のようなものが建って、東静岡駅を降りたところの正面に、雰囲気の違いの違うものが建ってしまいとても残念な気持ちです。早急にこの「点」を結んだ面的なエリアを、景観コントロールをするべきだということが1つです。

それと、私は書類も立派ですばらしいと思っています。ただ、これからのまちづくりは、自分たち市民が手を入れ積み重ねられるようなまちづくりが、市民に愛されるまちではないかと思っています。

そういったことで、景観計画の中で、緑の計画を早急に作成する必要があると思います。高いマンションなどが林立する中で、つないで連続性を持たせる緑、駅前の都市の玄関口

では「もてなしの緑」、「憩いの緑」、「安らぎの緑」とか、また、日本平は風致地区としての緑、三保松原は世界遺産としての信仰の緑ということで、緑の役割をこの景観計画にきちんと位置づけていただき、それに市民の人たちが参画できるようなまちづくりが必要だと思います。静岡県は「共創」、共に創り上げるをうたっていますが、それがまさに「文化力」につながっていく、将来の「文化力」を育てていくと思うのです。市民がどのように参画できるまちづくりができるかというところを、少しこの計画の中に盛り込んでいただきたいことがお願いの2点目になります。

最後に、この会議の前に坂先生の講演を1時間ちょっと聞かせていただきました。それは、「建築物・建造物」の意識が変わるインパクトのある内容でした。大変モニュメンタルな、メモリアルな、創り続けていく建物、今までは、未来永劫に残る建築物をイメージしがちでしたが、時代や社会変化に合わせて創り続けていく、みんなが営みと共に創り続ける建築とか物のあり方がこの場に相応しいのではないかと感動を覚えました。そのような取組は、これからの私たち静岡の、人の力になってくるのではないかと思った次第です。

【高階会長】 分かりました。他にいかがでしょう。

【内藤委員】 ロープウェイというのは、東静岡の駅の方からは上がっていきませんか。

【芳賀委員】 いや、上がるでしょう。

【内藤委員】 あちらの方からは、反対の方からはあるが、東静岡の方からは、一応この構想の中に入れていないのでしたっけ。

【高階会長】 前回それは出たのではないですか、具体的には。ただ、そしたら、そこからも行ける。

【芳賀委員】 東静岡からあちこちに寄って日本平まで行く。日本平から久能山にロープウェイでつながり、別方向には三保松原に下りるあのロープウェイができる。

【内藤委員】 果樹園の方に行くやつは、線が何となくどこかに書いてあったのだけど。

【企画広報部長】 御説明いたします。基本構想の17ページには、そういうお話がありましたので、資料2の本冊の17ページです。将来的な検討という、資料2、本冊の17ページです。

【高階会長】 本冊のね。

【企画広報部長】 はい。上から2つ目ですけれども、東静岡から日本平山頂に向かってということで、移動手段、ロープウェイというお話もありましたが、その横のイメージ

の中の一番最後のポツのところですよ。将来的にはということで、現状は今、住宅地等もたくさんありますから、なかなかまだ現実的な話にはなりません。今回3Dで見ていただいた所は県有地もありますので、先ほど知事が説明されましたとおり、構想として進めていけるものだと考えます。

【芳賀委員】 このロープウェイも非常に斬新なデザインの、今まで見たことないようなロープウェイができるといいですね。どこでもあるような四角だとかではなくて。

【内藤委員】 今すごく格好良いですよ。

【芳賀委員】 格好良い。

【内藤委員】 今、世界の都市再開発の最前線はロープウェイだと思うのです。

【芳賀委員】 良いではないですか。

【内藤委員】 本当そうなのです。南米のコロンビアで、僕が実際に関わっていたメデジンという街では、ロープウェイで街が変わってきてしまいましたからね。最小投資で最大効果、道路整備なんかより全然安い値段で、それで最大効果を生みますから、是非ここでうまく活用したら良いと思うのです。それから御提案します。

【芳賀委員】 車体も、とてもシャレた良いデザイン。

【内藤委員】 それも格好良いですよ。

【芳賀委員】 格好良い？

【内藤委員】 メデジンで入ったのは、フランス製で、ものすごく最新鋭のやつで、最新鋭のロープウェイがスラムの上をひゅっと越えていく。

【高階会長】 デザインも。

【内藤委員】 ええ。それは、だから静岡なりの、例えば車産業があるし、いろいろな産業がありますから、そういうところの最新鋭のデザイナーにやってもらったら、これはとても話題性があると思います。

【芳賀委員】 ロープウェイだけに乗りに来るお客も、アメリカからもフランスからも中国からも韓国からも、わんさか来るでしょう。ロープウェイの途中でちょっとスピードを落として、今日は富士山よく見えますというのでスピードを落とす。いいね。

【高階会長】 他にいかがでしょうか。

【芳賀委員】 いろいろ楽しくていいじゃないですか。

【高階会長】 コメントを。

【石塚委員】 文化というのは経済に支えられるというのが基本なのだろうと思います。

それで、グランシップに来て、1年間いろいろ考えてみたのですが、グランシップに求められるものは文化の発展だとか、普及だとか、そういうことと、もう一つはコンベンションによって人を集めると、そういう機能があります。

文化的機能は、ずっと今までいろいろと皆さんが積み上げられてきて、かなり高まってきたと思うのですが、コンベンション機能というのは、もう少し活用しなければいけない余地があるのだらうと思います。東京に行って全国レベルのコンベンションをどうしたら持ってこられるかというセールスをやってみたのですが、かなり静岡に対するニーズというのは高いのですが、やはり最終的には宿泊のキャパシティで諦めるというケースがあるわけです。

それで、今回いろいろな催しものを計画して、人がどんどん集まってきた時に、そういうものが収容できる容量をどのように確保するのか。これは、ニワトリと卵の議論になるかもしれませんが、これも決して無視できない話だと思うのです。

ですから、直ちに整備すると、確かにホテルの経営はものすごく大変なのですね。ですから、例えば、じゃあ、熱海の宿泊施設を使うのかとか、浜松の宿泊施設を使うのかとか、いろいろな知恵の出し方をしないといけないのだらうと思うのですが、やはり静岡の市内で人を収容できる知恵を並行して出していかないと、いろいろな計画をつくっても多分うまくいかないのではないかと思います。ですから、そういう点で、やはり現実をよく分析した上で、いろいろ計画を進めていかれたら良いのではないかと思います。

それから、もう一つ言いますと、今、グランシップに人を集める際に、高齢の方が多いのです。当然高齢化社会だから、多分そういう人たちが来ると思いますし、静岡は非常にエリアも広いから、東部や西部からバスで来られる方も増えてきているということで、そういう意味ではこのエリア、これからスポーツ施設も、もしできたとすれば、どうしても駐車場機能というのは考えておかなければいけない。それを用意しておかないと、これまた県民から、気軽に利用できる、そういう施設にはならないのではないかと思いますので、そういうこともぜひ考えてやっていただきたいと思います。

【高階会長】 はい。他にいかがでしょう。経済関係のことになると。はい、藤田さん。

【藤田委員】 今日は映像も見せていただきまして、知事からも御説明をいただきまして、非常に夢ある計画でこれから楽しみだなと思います。

この基本構想（案）の中にも少し出ておりましたが、東静岡の夜間の景観というところをもう少し掘り下げさせていただきまして、昼だけでなく夜でも楽しめる魅力あるまちづ

くりができないかと思います。何故ならば、三保松原も日本平も東照宮も県立美術館も全て昼型なのです。そう考えますと、県外の方たちが来た時に、静岡に来たら夜の東静岡も見て帰りたいというようになってくれば、静岡市内の方にも泊まっていただけではないかと思います。

グランシップをはじめ、今度のこの計画中の建物も非常に大型の建造物であるということだと、やはり壁面も非常に大きい。そこを使って、例えば静岡の歴史だったり文化だったり、そういったものを発信するプロジェクションマッピングだとか、何かそういうようなエンターテインメント性を持たせるようなやり方、仕掛けというものによって、観光のお客様であったり、夜楽しめる、そんなようなものも仕掛けの1つとして私は必要ではないのかなと思います。

以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。いかがですか。岩崎委員、はい。

【岩崎委員】 先生方から非常に高尚な文化の話を先にされると、我々はいつも現実的な経済の話をしなければならず、本当に困ってしまいます。これ、正直なところですけどもね。

本当に素朴な疑問なのですが、東静岡はグランシップもあり、文化の拠点にするという発想は分かるのですが、それと日本平をつなげるとすると素直につながらない。これは、無理矢理つなげようとするれば幾らでも理屈はできるのだろうけれども、大事なことは、自然につながるとのことだと思っております。

自然につながらないということは、やはり訴求ポイントとしては非常に弱いと私は思います。これは私の個人的な感覚かもしれませんが。

一方で、日本平を富士山ビューのポイントとして、あるいは、これはあと、何か色をつける必要があると思いますが、久能山もありますし、これは一つのポイントとして捉えるのは、僕は正しいと思うのです。ですが、東静岡と結ばなくてはいけないという、この必然性というのは、特に我々、経済的な面から見ると、あまり意味がないと思うのです。

むしろ、清水から結んでいきたいと思うのです。もし、ロープウェイとすれば清水側に下りるわけですから、むしろ清水とロープウェイの果樹研究センターとをどうやってつなぐか。これは全く今アクセスがありません。アクセスがないということは、結局日本平のアプローチは車でしかないよねということになるわけです。東静岡も同じです。全く同じです。結局、どこにどういふものをつくっても、そこに至るまでのアクセスが車でしか

ないということは、日本平ってやはり車でしか行けませんよねと、こういう話になってしまおうと思うのです。

ですから、最大のポイントは、例えばロープウェイを清水側に下ろすにしても、そのロープウェイの清水側と既存の公共交通機関とをどうつなぐかという、その見通しを立てないと、何か浮き上がってしまうのではないかと。我々、どうしても経済界の人間はこう考えるのです。

しかも、これからやはり少子高齢化の中で、ここを訪れる人たちはどのような人だろうと考えるのです。これはマーケティングです。海外から来る人もいらっしゃるでしょう。でも、海外から来る人は車では来ません。御高齢の方々がおいでになるのは、やはり車ではないです。となると、本当にその公共交通機関のベースとなるところとのアクセスポイントというか、どういうアクセスの方法でここへお連れするかということをしっかり考えていかないと、本当に浮き上がった、浮き上がればいいのですよ夢殿ですからとおっしゃる人もいるのだが、そういうわけにはいかない。やはり我々、生身の人間としては、経済で生きている人間としては、それはやはりビジネスにしていかなければいけない。これ、税金ですから。投じるものはね。後世の方々に負債を残すわけにはいかないわけですから、やはりそこをしっかりと考えないといけないというのが私の実感でございます。

すいません、夢をつぶすようなことばかりで。

【高階会長】 いえいえ。酒井委員。

【酒井委員】 ロープウェイの話がいろいろ出るものですから、難しいなと思いつつ聞いております。日本では、2キロメートルを超えるロープウェイというのはなかなか存在しないのです。理由はいろいろありますが、例えば土地の問題があったり、あるいは非常に長いロープウェイになってきますと、設備投資が大きい。基本的に、事業性が非常に難しいです。

今回、いろいろなところのロープウェイの話が出ておりますが、例えば東静岡から日本平というと、おそらく5キロメートルを超えるロープウェイになると思います。ですから、もちろん日本平が賑わって、あるいはこの辺が開発されて、人が増えるということも想定しながらだとしても、民間が言うところの事業性は難しいと思います。ですから、これを実現するためには、ここに、ちょうど17ページに書いてあるように、日本平動物園を1つかませて、短いところで事業性を持たせて、その後、頻度は落ちてもいいから長くするという、日本平を途中にかませるとするのは、ちょっと、半歩、現実的に近づくのかなとい

う気がします、いずれにしても、5キロメートルというもので事業性を考えることはできません。

ただ、今、事業性と言っているのは、民間の言っている事業性だけではなく、今、岩崎委員が言っていたとおり、新たな仕組みの中で、どういう形で将来も維持していくのか、継続させていくためには、当然事業性というのも考えなければいけませんので、両方やっていかなければいけないだろうということで、ロープウェイが一人歩きするというのは、少し危険かなと感じています。ですから、必ず事業性とのチェックを持ちながらやっていきたいなと思っています。

そうやってきた時に、清水とのアクセスというのは、2.5キロメートルまでいかないのです。しかし、2キロメートルを超えることは確かですので、かなり長いものになります。ただ、日本平と清水がつながると、その先には日の出、要するにウオーターフロントとしての清水港があり、三保松原がつながるということで、何回か出ています、「点」が「線」になる、「線」が「面」になるという部分でのメリットというのは出てきますので、現実性はあるのかなと思います。ただ、これにしても、やはり事業性自体は、かなり厳しいものがありますので、どうやってそれを維持しながらやっていくかという仕組みづくりを並行してやっていかないと、ハードルとしては高くなるのかなと、そんなことを考えながら聞いておりました。

【高階会長】 はい。

【芳賀委員】 しかし、ロープウェイは、動物園と舞台芸術公園とか、そういうところに停まることは初めから想定しているのではないですか。

【酒井委員】 いえ、一直線でやるということが非現実的だと思っていますので。

【芳賀委員】 だから、必ず途中で停まっている、初めからその想定ですよ。あるいは、県立美術館にも停まってもら、図書館にも停まってもら。県立大学にも停まる。各駅停車で5駅ぐらい、それで東静岡に着く。ロープウェイがなければ商売にならない。こんなことで、オンデマンドのバスなんて、こんな古くさい100年も前の話、まだよく出てくるのだよ。オンデマンドというのは、あらかじめ電話か何かして注文しておくわけでしょう。こんな面倒くさいことできやしない。

【酒井委員】 申し上げたいのは、いずれにしても、5キロメートルのロープウェイというものの事業性というのを考えながらやらないと、現実的ではないのではないかなと思います。

【芳賀委員】 ノンストップの5キロメートル？

【酒井委員】 いえいえ、東静岡から日本平までが5キロですから。そこを幾つか停まったとしても、非常に大きな設備投資になるということを申し上げました。

【芳賀委員】 でも、それくらいないと商売にならないとも考えられるでしょう。

【高階会長】 商売というのは、夢殿は何をしに行くのですか。要するに、大勢が来て、周りをぐるっと眺めるのはいいけれども、建物の中身をもっと具体的に考えないと。大きい建物が建てられるのは大変結構だと思うのですが、そこで宿泊もできて、あるいは文化交流もできてという形になれるのか。あるいは、単なる展望台であるのか。何をそこにに入れるかということは、基本的に今の問題に係る、人集めということにしても。どうぞ。

【文化・観光部長】 夢殿、山頂につきましては、先ほど来、話が出ていますように、富士山をとにかく臨む日本で最高の場所にあるということで、いわゆる富士山を臨むという機能、それに合わせて、やはり富士山というのは文化の源泉でございますので、そういったものをその場所で実感できるような機能、また日本平の歴史を……。

【高階会長】 展示機能なり、あれですか。

【文化・観光部長】 そういった機能とあとは軽食等、近くに日本平ホテル等の施設もございますので、そういうのと当然機能分担してという話になりますし、あと、名勝でございますので、当然そこにはあまり大きな、華美なものは建てられないという状況もございますので、当然、周りの景観とマッチしたような施設が必要でしょうということで、そういったものをコンパクトに入れ込んだ施設として考えてまいりたいということでございます。

【芳賀委員】 要するに、ビジターセンターですね。

【文化・観光部長】 ビジターセンターであり、そこで少し寛いでいただくという、先ほど知事からも迎賓的な機能とございましたが、要はゆっくりと景観を楽しんでいただくという機能も必要になってくるかと思えます。

それで、そういった機能につきまして、この4月から、どういった機能を盛り込む、もしくは規模をどうする、そういったものについて検討を進めていく。その先に当然施設をつくっていくというような手順となってまいります。

【高階会長】 はい。

【田辺市長】 行政の立場でも、市というのは現場を持っていますので、そういう意味では経済界の委員の皆さんがおっしゃることというのは、大変実感として理解ができます。

アベノミクスの第3の矢の、いわゆる成長戦略、いろいろなアイデアが国でも出ていますし、それと連携していこうということで、地方創生というのが今年、元年とされていますが、この成長戦略の主役というのは民なのです。民がどうやって現場でもうかってもらうかを行政は下支えをするために投資をするということが、第3の矢の成長戦略であり責任だろうというのが、現場を持つ基礎自治体の立ち位置であります。

しかし、そのためには、推進力みたいなのがなければいけませんので、事業性ばかりだけではなくて、今日、私は大変感謝したいと思うのは、2回の議論を経て、今日、事務方がここまでの資料をまとめてくださったというのは、大変な御尽力だったと思いますし、我々の無理難題の注文の中で、3Dで分かりやすく、あのようビジュアルに説明をしてくださったというのも、どなたのアイデアか、大変すばらしいな、わかりやすいな、そしてあのビジョンに対して、委員の皆さん、立場はいずれにせよ、いいなと思ってくださったと、私もその一人ですね。こうなったらいいなと、そうやって素直に私は3Dを見て、思わせていただきました。

おおむね3Dの映像は、この委員の皆様で共有できると思うのです。ですので、そこをスタートにして、これから経済面、あるいは財政面と言ってもいい、その観点と、あと文化面、あるいは機能面といった、この2つの観点から、どうやって市と県と民間の連携の中で、「プラスサム」の形をつくっていくかだと思うのです。やはり本質はディテールに宿るわけですので、例えば、先ほど「場の力」といっても、県有施設としての舞台芸術公園と、そのすぐパークウェイを挟んで横に日本平動物園が市立であるのですが、公立動物園の中では大変集客力のある動物園なのです。では、例えば動物園の中でSPACの演劇をやってもらおう、あるいは動物園から舞台芸術公園へのアンダーパスをつくって、向こうで文化イベントをやってもらおうとか、そういうこともできるし、いろいろな意味での「プラスサム」がこれから、各論、各論でできると思うので、おおむね今日のビジョンを基に、最初に木苗先生がおっしゃったような工程表を、これから次年度に向けて、どうやって、市、県、民間の連携でやっていくというところで、今日はすごく私は意義のある会合だったなと思いました。

以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。他に、もうそろそろ時間も迫ってまいりました。でも、案に盛り込む、これだけは言っておきたいということがあれば、有識者会議として今日のお話も含めて事務局でまとめていただくことになると思います。さまざまな問

題が出てまいりました。それ、全部取り込んでいただきますから。今後考える上でも、これだけは是非ということがあれば。

よろしゅうございましょうか。それでは、時間も迫ってまいりました。最初に申し上げました当初の予定どおり、有識者会議として今年度お集まりいただくのは本日が最後となります。事務局において本日の御意見を踏まえ、個別に各委員に御報告の上、年度内に「“ふじのくに”の『文化力』を活かした地域づくり基本構想」の取りまとめを事務局にお願いしたいと思います。

委員の皆様には、年度末の御多忙の中恐縮ですが、それに対して事務局からも連絡があると思います。御協力お願いいたします。なお、取りまとめ次第、年度末をめどに、私から皆様の代表として知事に御報告させていただくという形をとりたいと思いますので、御了承お願いいたします。

また、個々の委員の御意見については、事務局からも御連絡いたします。会議として何か判断を要する点がありましたら、私に御一任いただきたいと考えます。そういうことで進めてよろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

【高階会長】 それでは、事務局の方で、以下、よろしくお願ひしたいと思います。本日は、長時間にわたって熱心に御討議いただき、御協力をありがたく思います。

では、進行を事務局の方にお返しいたします。

【企画広報部長】 高階会長、委員の皆様方、どうもありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

【川勝知事】 本当にありがとうございました。厚く御礼を申し上げる次第でございます。

徳川家康公没後400年目ということで、家康公は駿府の町割をなさったわけです。もちろん江戸の町割もなさいました。それがいわば日本の都市景観を変えたのです。それまでは、いわゆる奈良、京都、それから場合によっては鎌倉くらいしかなかったわけですが、いわゆる城下町の景観というものには、それぞれの地域に応じた非常に大きな、例えば呉服町だとか鍛冶町だとか残っていますが、いずれもお城を中心にして、富士山を借景にしながら町をお考えになったわけです。

ここに都市景観とかデザインとかというのは、これは徳川家康公を待つまでもなく、その前の大坂城をつくった秀吉、あるいは安土城をつくった信長も、全体を、交通や、あ

るいは全体を見ながら部分をつくっているわけです。

そうした中で、私ども県有地と市有地がある。その周りのところは、全く景観をないがしろにしているというのを、内藤先生あるいは東先生から御指摘いただきましたが、誠に恥ずかしいと思っております。

したがって、少なくとも日本の、また世界の宝物としての富士山に恥ずかしくないような、そうした都市デザインについての、今、知見が非常に高いものがありますから、しかもうちには文化芸術大学という、これは生産デザイン、あるいはメディアデザイン、それから空間デザインというものを専門にして、もう既に十数年の、2000年からですから、もう15年の歴史をけみしてきた、そういう先生も、また学生も、卒業生もいるわけです。ですから、これはこれで活用していきたいと思っている次第でございます。

それから、一番上の日本平山頂のシンボルについては、遠山先生が日本平山頂のシンボル施設は、富士山の雄大な展望とともに、日本平と富士山にまつわる歴史物語を含む知的な満足と富士山が見えない場合も映像などを駆使して、心理的な満足が得られる魅力的な名シンボル施設にさせていただきたいと言われているので、一応ここで御紹介をしておきますが、こうしたものを含めて、全体、これを選んであれを選ばないというのは違うので、足して和ですから、そして、調和ということで、大きな輪をつくるというつもりで、今日、委員の先生方からいただきました意見を集約してまいりたいと思いますが、高階先生からそれを一応まとめていただいて、それをいただいた上で、新年度からこれを形にして、恥ずかしくないものをつくっていこうと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【企画広報部長】 本日は、長時間にわたりましてありがとうございました。

以上をもちまして、東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議を終了といたします。お疲れさまでございました。

— 了 —